

# 「観光都市 with SDGs」～伊勢志摩！未来創造プロジェクト～



1 目的: 持続可能な未来を創造できるグローバルな視点を持った地域社会のリーダーを育成

2 目標: 「地球市民力」と「未来創造力」を育成するカリキュラム開発

3 取組概要

## 地球市民力の育成

グローバルな視野を持ち、持続可能な社会を構築する力  
「課題解決力」、「論理的思考力」、「地域への貢献力」、「語学力」

## 未来創造力の育成

「地域・世界」「人・もの・サービス」をつなぐ力  
「企画力」「調整力」「実践力」「突破力」「創造力」

### 1. SDGs推進プログラム開発

- ① SDGs基礎プログラム（教科横断的な視点）
- ◆ 貧困の根絶（経済・社会開発）と持続可能な社会（環境）の両立や不平等（格差）の是正等について、様々な教科・科目で系統的に学習

- ② SDGs探究プログラム
- ◆ 科目「課題研究」において、グローバルカンパニーでのインターンシップ、廃材を活用した商品開発等を実践



家具などの廃棄ごみリデュースプランの開発

- ③ SDGs語学力向上プログラム
- ◆ 科目「グローバル・コミュニケーション」において、地球的課題について、ディスカッションやディベートを実施



### 2. 観光都市を描くプログラム開発

- ① 伊勢志摩PRプログラム
- ◆ 科目「課題研究」で、コンソーシアムと連携し、SDGsの視点を踏まえた課題解決型学習の実施



様々な国の人と交流し、世界から訪れる人を出迎える観光プログラムの開発



自然と暮らしを繋げるグリーンツーリズムモデルの開発

- ◆ みえグローバル学生大使として県内の観光地での英語ガイドを実施

- ② 国際交流プログラム
- ◆ オーストラリア姉妹校との連携を強化（Web会議システム活用、長期留学生受け入れ）
  - ◆ SDGsや観光についての海外研修プログラム作成



### 効果の測定とカリキュラム・マネジメント

- ◆ GROW
- ◆ パフォーマンス評価
- ◆ 生徒アンケート
- ◆ コンソーシアム会議等での評価等

### 数値目標

- ◆ 地域の活性化プラン作成本数：3本／3年間
- ◆ 海外と交流を行った回数：3回／年
- ◆ ディベート・ディスカッション等の評価規準作成：5本／3年間
- ◆ 国際的なイベント等への参加回数：3回／年等

### 連携協力

- ◆ 皇学館大学文学部コミュニケーション学科
- ◆ 地方自治体（伊勢市等）
- ◆ JA伊勢、伊勢市商店街等
- ◆ モンバルク・カレッジ（オーストラリア姉妹校）

ふりがな	みえけんきょういくいいんかい	ふりがな	みえけんりつうじやまだしょうぎょうこうとうがっこう
管理機関名	三重県教育委員会	学校名	三重県立宇治山田商業高等学校

## 2019年度 地域との協働による高等学校教育改革推進事業 実施体制の概要

### 1 管理機関・学校の概要

#### (1) 管理機関名、代表者名

管理機関名：三重県教育委員会

代表者名：廣田 恵子

#### (2) 学校名、校長名、研究を実施する学科

学校名：三重県立宇治山田商業高等学校 学科：普通科 専門学科 総合学科

校長名：廣島 朗

### 2 取組内容

(1) テーマ： 「観光都市 with SDGs」 ～伊勢志摩！未来創造プロジェクト～

#### (2) 研究のねらい

本研究では、「持続可能な未来を創造できるグローバルな視点を持った地域社会のリーダー」を育成することを目的とする。

そのために「SDGs推進プログラム」と「観光都市を描くプログラム」の研究開発を行い、グローバルな視野を持ち、持続可能な社会を構築する「地球市民力」と観光都市伊勢志摩の未来を描く「未来創造力」の2つの力を育成する。

※ 地球市民力の定義：SDGsの観点を踏まえ、グローバル・シチズンシップに必要な「課題解決力」、「論理的思考力」、「地域への貢献力」、「語学力」

※ 未来創造力の定義：「企画力」、「調整力」、「実践力」、「突破力」、「創造力」

<プログラム開発のねらい>

#### ① SDGs推進プログラム

SDGsの視点を持って自然・歴史・食文化等の魅力あふれる伊勢志摩地域を持続可能な社会として未来につなげるため、教科横断的な学習、探究的な学習、課題解決型学習、高度で実践的な英語教育をとおして、課題解決力、論理的思考力、地域への貢献力、語学力の育成を図る。

#### ② 観光都市を描くプログラム

観光資源豊かな伊勢志摩の魅力を広く国内外に発信するとともに、新しい観光ビジネスモデル等を実現するため、課題研究や国際交流活動をとおして、企画力、調整力、実践力、突破力、創造力の育成を図る。

### (3) 具体的な取組内容

(ア) SDGs推進プログラムの開発

#### ① SDGs基礎プログラム（教科横断的な視点）

各教科・科目（国語、地歴、公民、家庭、商業など）でSDGsに関連する知識・技術を育成するとともに、SDGsについて造詣が深く生徒への講演や指導、教員研修等を行うことができる者（以下「環境教育アドバイザー」という。）や企業でSDGsを担当している専門家等、コンソーシアムの皇學館大学の教授等から、貧困の根絶（経済や社会開発）と持続可能な社会（環境）の両立や不平等（格差）の是正について学ぶ機会を設ける。

#### ② SDGs探究プログラム

科目「課題研究」において、1・2年次で学習したSDGsの知識・技術を活用し、伊勢市内のグローバルカンパニーへのインターンシップや廃棄食材を使用した商品開発等を実践し、思考力・判断力・表現力等を高める探究的な学びを実施する。

#### ③ SDGs語学力向上プログラム

語学力の向上や異文化理解を深めるため、三重大学、皇學館大学等への留学生との交流会や校内外の英語スピーチコンテスト等への積極的な参加を推進する。また、学校設定科

目「グローバル・コミュニケーション」を設置し、大学生や留学生等と福祉、医療、環境等の地球的規模の課題に関するディスカッションやディベート等をとおして、英語コミュニケーション力の向上を図る。

(イ) 観光都市を描くプログラム開発

① 伊勢志摩PRプログラム

科目「課題研究」において、観光資源（自然・歴史・食等）が豊かな伊勢志摩地域を活性化するため、SDGs推進プログラムで学んだ知識を生かした「高校生エコツーリズム（仮称）」や、「勝手に伊勢志摩観光大使（仮称）」等の取組を行う。また、広く国内外に伊勢志摩の魅力を発信し、観光客の増加を図るため、伊勢市が進める「伊勢市・グローバル・オープン・イノベーション事業」に参画する。

② 国際交流プログラム

海外交流アドバイザーの支援を得ながら、生徒が国内外で国際交流活動（観光先進国への海外研修、三重県が観光協定を結んでいる台湾との交流等）を推進し、主体性・積極性等を育成するとともに、観光先進国から、伊勢志摩地域を観光都市として確立する手法等を学ぶ機会を創出する。

(ウ) (ア) と (イ) に関する効果測定の開発・検証

① パフォーマンス・ポートフォリオに関する評価規準の策定

- 英語によるディベートやディスカッション等のパフォーマンス、課題研究及び校外における活動等に係るポートフォリオを評価するための評価規準を策定する。

② 資質・能力測定ツール「GROW」を活用した各種プログラムの効果測定

- 東京のIGS株式会社と連携し、資質・能力測定ツール「GROW」を活用して生徒の資質・能力の伸びを把握し、各種プログラムの効果を検証する。

③ 外部評価

地域・コンソーシアム等への提言等を含めた発表会において、課題研究の成果を地域社会に発信し、アンケート等により外部有識者の評価を受ける。

### 3 管理・運営方法

(1) 高等学校と地域との協働によるコンソーシアムの体制

機関名	機関の代表者名
三重県立宇治山田商業高等学校	廣島 朗
伊勢市	須崎 充博
皇學館大学	豊住 誠
伊勢農業協同組合	河井 英利
ULジャパン	福村 伝史
海女小屋 はちまんかまど	野村 一弘
三重県教育委員会事務局高校教育課	諸岡 伸

(2) 将来の地域ビジョン・求める人材像等の共有方法

伊勢志摩地域においても他の地方都市と同様に人口減少、少子高齢化が進展し、まちの活力の低下が懸念されている。このような状況において、伊勢市は、本地域の強みである観光産業に力を入れることで、産業が活性化され、雇用にも好影響が及ぶことを目指した「伊勢市観光振興基本計画」を策定するなど、取組を進めている。

そのような中、本事業では、「持続可能な未来を創造できるグローバルな視点を持った地域社会のリーダー」を育成するため、地元の企業や大学等（「グローバル人材育成コンソーシアムみえ（仮称）」）と連携し、観光分野等の探究的な学習活動をとおして、論理的思考力、課題解決力等を育むことを目標としている。そのため、県雇用経済部とも連携しながら、学校と県内企業との人材育成連絡協議会等を検討中である。このような取組を一層進めることで、グローバルな視野を持った地域で活躍する人材の育成・定着につなげたい。

### (3) コンソーシアムにおける研究開発体制



### (4) カリキュラム開発等専門家（地域魅力化型・プロフェッショナル型）、海外交流アドバイザー（グローバル型）の指定及び配置計画

海外交流アドバイザー1名を配置する。海外交流アドバイザーは、語学力が高く、海外研修等のプランニング実績、異文化理解等の学習活動で生徒に対する指導実績がある。これらの経験を生かし、海外研修のプランニングや姉妹校との新たな連携などの業務を行う。

### (5) 地域協働学習実施支援員の指定及び配置計画

地域協働学習実施支援員1名を配置する。地域と協働した取組に実績があると同時に、地元伊勢志摩の廃棄食材の商品開発やゴミ資源問題の解決に向けた活動を展開しており、本事業をスムーズに実施できるようアドバイスを求める

### (6) 運営指導委員会の体制

三重県教育委員会内に運営指導委員会を設置し、毎年2回（年度初め、年度末）委員会を開催し、宇治山田商業高等学校の事業計画の評価と改善、進捗の確認、取組の評価と次年度改善策を協議し、宇治山田商業高等学校に対して有効な指導・助言を実施する。

#### 【運営指導委員会メンバー】

氏名	所属・職名
高見 啓一	学校法人享栄学園鈴鹿大学准教授
矢部 一成	I G S株式会社 教育事業部マネージャー
生川 哲也	三重県雇用経済部国際戦略課長
三田 泰久	株式会社アーリー・バード 代表取締役
諸岡 伸	三重県教育委員会事務局高校教育課長

### (7) 研究成果報告・事業成果の検証に向けた計画

- ・ 県事業「未来を拓く職業人育成事業」の成果発表会（2月開催）で、事業成果を発表する。
- ・ 三重県生徒商業教育研究発表大会（8月開催）において、事業成果を発表する。
- ・ 宇治山田商業高等学校において、授業公開（3回）、研究協議会（1回）を開催する。
- ・ 宇治山田商業高等学校において、地元企業やコンソーシアム等を対象に、「地域フォーラム『SDGsの視点で伊勢志摩の未来を創る』（仮称）」を開催し、生徒が研究成果の発表や提言活動をすることにより、研究の質やプレゼンテーション力の向上を図るとともに、大学や企業等との連携の拡大や地域の活性化を図る。
- ・ 事業成果報告書を関係高等学校等へ配付するとともに、各取組の成果を宇治山田商業高等学校や県教育委員会webページに掲載する。

#### (8) 管理機関又はコンソーシアムによる主体的な取組・支援

三重県教育委員会事務局では、グローバルな視点を持った地域社会の担い手や地域産業を支える職業人を育成するために予算化されている以下の事業等を活用して、宇治山田商業高等学校に対して、重点的な支援を行う。

- ・ 県事業「未来を拓く職業人育成事業」のうち、地域活性化に貢献する取組の研究校に指定。
- ・ 「みえ未来人（みらいびと）育成塾」（県内の高校生と県外の高校生が英語で世界や地域の課題についてディスカッションするなど、グローバル人材の育成）
- ・ 県事業「新学習指導要領に対応した英語教育推進事業」の研究校に指定
- ・ 県事業「三重県高校生海外研修旅行」（県内高校生10名のうち宇治山田商業高等学校の生徒1名分（10万円）を支援。）

また、三重県教育委員会事務局高校教育課では、県内のグローバル人材を育成するため、英語の担当指導主事を2名配置し、県内の高等学校への指導・助言を行っている。

宇治山田商業高等学校の人事面においては、学校の経営方針に資するため、校長の意見を尊重しつつ、教職員の適正配置に努めるとともに、教職員が効果的に研修できるよう支援する。

#### (9) 事業終了後の継続的な取組の実施に向けた計画

これまで、国事業の後継施策として、M i e S S H事業やM i e S E L H i 事業を実施してきたノウハウを活用し、地域との協働による高等学校教育改革推進事業（グローバル型）にかかる取組や県教育委員会独自の地域の担い手や地域産業を支える職業人の育成事業について、その成果を検証し、有効な取組については、引き続き県独自で事業化できるように努める。

2019年度 地域との協働による高等学校教育改革推進事業 研究開発の概要

指定期間	ふりがな	みえけんりつうじやまだしょうぎょうこうとうがっこう				②所在都道府県	三重県
2019～2021	①学校名	三重県立宇治山田商業高等学校					
③対象学科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模	
	1年	2年	3年	4年	計	設置学科： 商業科（3学級），情報処理科（1学級）， 国際科（1学級） 生徒数：598名	
	商業科	120	119	120	359		
	情報処理科	40	40	40	120		
国際科	40	40	39	119			
⑥研究開発構想名	「観光都市 with SDGs」 ～伊勢志摩！未来創造プロジェクト～						
⑦研究開発の概要	自然・歴史・食文化等の魅力あふれる伊勢志摩地域を持続可能な社会として未来につなげる「SDGs推進プログラムの開発・実践」と観光資源豊かな伊勢志摩の魅力発信や新しいビジネスモデルの構築を目指す「観光都市を描くプログラムの開発・実践」に取り組むとともに、2つのプログラムの効果測定の開発・検証を行う。						
⑧研究開発の内容等	⑧-1全体	<p>(1) 目的・目標</p> <p>本研究では、「持続可能な未来を創造できるグローバルな視点を持った地域社会のリーダー」を育成することを目的とする。</p> <p>そのために「SDGs推進プログラム」と「観光都市を描くプログラム」の研究開発を行い、グローバルな視野を持ち、持続可能な社会を構築する「地球市民力」と観光都市伊勢志摩の未来を描く「未来創造力」の2つの力を育成する。</p> <p>※ 地球市民力の定義：SDGsの観点を踏まえ、グローバル・シチズンシップに必要な「課題解決力」，「論理的思考力」，「地域への貢献力」，「語学力」</p> <p>※ 未来創造力の定義：「企画力」，「調整力」，「実践力」，「突破力」，「創造力」</p> <p>(2) 現状の分析と研究開発の仮説</p> <p>伊勢志摩地域は、古くから「日本人の心のふるさと」として親しまれてきた伊勢神宮や広大な伊勢志摩国立公園を擁しており、歴史と豊かな自然に恵まれている地域である。一方、人口減少、少子高齢化の進展、まちの活力低下等、様々な地域課題も生じている。これらの課題に対して、伊勢市は本地域の強みである観光産業に力を入れることで、産業が活性化され、雇用にも好影響が及ぶことを目指した「伊勢市観光振興基本計画」を策定するなど、課題解決に向けた取組を進めている。</p> <p>これらの取組をとおして、観光を軸として、その効果を伊勢市だけでなく、伊勢志摩地域や定住自立圏域の市町にも波及させ、観光が地域を持続的に発展させていく牽引役となるよう取組もうとしている。このような地域にある高等学校として、これからの伊勢志摩地域を支える地域社会のリーダーや、海外からの訪問者の多い地域で活躍できる職業人の育成が重要な使命であると考えている。</p> <p>&lt;仮説1&gt;</p> <p>SDGs推進プログラム（福祉、医療、環境等の世界や地球が直面する「地球的課題」を英語でディスカッション、廃棄食材を活用した商品開発等）を実践することで、学習内容の充実が図られ、「課題解決力」，「論理的思考力」，「地域への貢献力」，「語学力」を育成することができる。</p> <p>学校全体で「地球市民力」&lt;仮説2&gt;</p> <p>観光都市を描くプログラム（エコツーリズムやインバウンド観光プログラム等）を実践することで、生徒の「企画力」，「調整力」，「実践力」，「突破力」，「創造力」を育成することができる。</p>					

⑧ -2 具 体 的 内 容	<p>(1) 地域との協働による探究的な学びを実現する学習の実施計画</p> <p>&lt;SDGs推進プログラムの研究内容&gt;</p> <p>① 地域課題研究委員会は、SDGsに関する学習活動を、学校全体のカリキュラム計画に位置付け、各教科・科目で実施するプログラムの研究開発を行う。</p> <p>② 2年次・3年次の科目「課題研究」で、SDGsに関する探究的な学習活動ができるプログラムの研究開発を行う。</p> <p>③ 学校設定科目「グローバル・コミュニケーション」で、留学生等と英語によるコミュニケーションをとおして、語学力等の向上を図るプログラムの研究開発を行う。</p> <p>④ 各プログラムは、コンソーシアムと連携して実施する。</p> <p>⑤ コンソーシアム及び代表生徒で構成する「グローバルワークショップ」において、各プログラムの検証を行う。</p> <p>&lt;観光都市を描くプログラムの研究内容&gt;</p> <p>① 2年次・3年次の科目「課題研究」で、観光に関する探究的な学習活動ができるプログラムの研究開発を行う。</p> <p>② 「勝手に伊勢志摩観光大使（仮称）」や「みえグローバル学生大使」等の校外における学習活動に関するプログラムの研究開発を行う。</p> <p>③ 観光先進国等で学習する海外研修に関するプログラムの研究開発を行う。</p> <p>④ 各プログラムは、コンソーシアムと連携して実施する。</p> <p>⑤ コンソーシアム及び代表生徒で構成する「グローバルワークショップ」において、各プログラムの検証を行う。</p> <p>&lt;上記2つのプログラムに関する効果測定の開発・検証等&gt;</p> <p>各教科・科目において実施するプログラムの効果測定のためのタスクおよび評価規準の作成を行うとともに、その効果測定により生徒の資質・能力の伸びを図る。</p> <p>① パフォーマンス・ポートフォリオの評価規準の策定</p> <p>② 資質・能力測定ツール「GROW」を活用した各種プログラムの効果測定</p> <p>③ 地域・コンソーシアム等への提言等を含めた発表会で、課題研究の成果を地域社会に発信し、アンケートの実施や懇談会の開催等をとおして、外部有識者のフィードバックや評価を受ける。</p> <p>(2) カリキュラム・マネジメントの推進体制</p> <p>校内の地域課題検討委員会において、「持続可能な未来を創造できるグローバルな視点を持った地域社会のリーダー」の育成を目指した学習の実施計画をもとに、①「地球市民力」と「未来創造力」を育成するため、各教科において、SDGsの視点を踏まえた学習内容は何かを検討し、それに基づき各授業や学習活動等が実践できているかを検証する。また、その結果を各教科において、②本事業の目的実現に向けたPDCAサイクルの構築につなげるため、各教科から示された改善策を地域課題研究委員会で検討する。さらに、③外部資源の活用（コンソーシアムからの人的・物的なサポート等）について、「地球市民力」と「未来創造力」を育成するために適切な資源を効果的に活用できたかも合わせて検証する。</p> <p>上記①から③のカリキュラム・マネジメントの視点を踏まえ、すでに学校に設置している教育課程委員会と地域課題研究委員会が連携し、学校目標が実現できる仕組みの構築を行う。</p> <p>(3) 必要となる教育課程の特例等</p> <p>①教育課程の特例に該当しない教育課程の変更</p> <p>&lt;学校設定科目の開設&gt; 教科：英語，科目名：「グローバル・コミュニケーション」</p> <p>&lt;開設理由&gt;英語による高度な言語活動をとおして、論理的思考力や表現力を高めるとともに、異文化理解を促進するため。</p>
⑨ 其 他 特 記 事 項	